

診療情報学 第2版



評者 高久 史磨 日本医学会会長

平成17年4月に施行された個人情報保護法によって、患者の個人情報は原則として患者自身に帰属するものであることが明示された。一方、病院医療の現場では、チーム医療の推進のために、診療に関する情報の一元化と共有化が強く求められるようになった。そのような状況下において個人情報をどのように保護するかが大きな課題となった。

このような問題への対応として、2010年9月に、日本診療情報管理学会の編集による『診療情報学』が医学書院から刊行された。

本書は、わが国の診療情報分野の専門家、実務の担当者によって編集・執筆された、診療情報に関して医療の現場が直面する諸問題をまとめたわが国初の大著であり、医療の管理者から現場の従事者に至る、全ての医療関係者にとって必読の本となった。その意味で本書はわが国の医療の質の向上に大きく寄与したと言っても過言ではないであろう。

本書の初版は、発売2年目の2012年3月に第2刷となっており、このことも本書がいかに医療の現場で広く利用されてきたかを示す事実と言えよう。

しかし、本書の初版が刊行された2010年から2015年の5年間に、診療情報をめぐる環境は大きく変化した。その例としてレセプトの電算化、急速な電子カルテの普及、

DPCデータやナショナルデータベースの活用など、診療情報のIT化の動きの加速が挙げられる。さらにICD-11改定、災害時診療記録のあり方など、診療情報の内容に関してもさまざまな新しい動きがみられている。

また、地域包括ケアシステムの導入によって、診療情報の取り扱いには、より一層慎重な対応が求められるようになっていく。

このような状況の変化を受けて、日本診療情報管理学会は、本書の第2版を刊行することとなった。第2版は初版と同様に、Ⅰ．診療情報学総論、Ⅱ．診療情報の価値を高めるためのシステムと評価（診療情報学と応用）、Ⅲ．診療記録の種類と記載法、の3部によって構成されており、上記に例示した診療情報をめぐる最近の環境の変化に対応した新しい概念、知識、技術が診療情報の専門家によってわかりやすく、かつ詳細に記述されており、初版と同様に医療従事者にとって必読の書となっている。

初版と同様に、第2版がわが国の医療情報のハンドブックとして医療の現場で広く利用されることによって、医療の質の向上に大きく寄与することを強く期待している。第2版を編集された日本診療情報管理学会、特に学会員をはじめとする執筆者の方々に心からの敬意を表して本書の書評の締めくくりとしたい。

日本診療情報管理学会 編
B5判／488頁／2015年／定価（本体8,000円＋税8%）／ISBN978-4-260-02397-9／医学書院 刊